

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成30年7月19日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigvovsCd=2470200938-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 30 年 8 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には緑が多く、春には桜が咲く自然と中学校や高校、住宅も近くにある環境に当グループホームはあります。また、敷地内には在宅介護支援センター・デイサービス・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・サテライト特養があり、協力体制もあります。ケアの面では、ご利用者お一人おひとりの特徴を掴み、その方にあったケアを行うように心がけ、笑顔を引き出せるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市市南部の丘陵地帯の緑豊かな環境に建てられた事業所は、2000年12月に開所され今年で18年目を迎えている。付近は住宅が建ち並ぶほか、中学・高校・特別支援学校などが点在する静かな環境であり、事業所の大きな敷地の中には同じ運営法人による在宅介護支援センターやデイサービスなどの施設も展開されており、地域の福祉拠点としての趣もある。事業所は2ユニットでありながら家族的な雰囲気の中運営されており、利用者一人ひとりの尊重と笑顔を掲げた事業所理念の通りに、明るい大きな声と笑顔が行き交う事業所である。運営審議会を中心にして地域や行政からの支援、理解も多く地域のこれからの発展に併せて大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」とし、ご利用者の変化について職員同士で話し合い、情報共有するよう努力している。	利用者一人ひとりの尊重と笑顔を主題とした理念は、10年ほど前に当時の管理者と職員全員で考え定められたもので今も大切にされている。「職員の笑顔は利用者の笑顔、また利用者の笑顔は職員の笑顔」をコンセプトにお互いの立場を超えた家族としての信頼が理念のもとに築かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌の会を通じて、他法人の施設との交流を継続しており、行事の案内をいただくと、参加させていただくことで地域との交流を図れるようにしている。	自治会には同敷地内にある運営法人による他の施設と合同で加入しており、自治会行事などには職員も手伝いとして参加するなど地域の一員としての役割を果たしている。特に地域と一緒に開く「福祉教室」や地元老人会のバスハイクへの参加など良好な関係が保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験や職場体験を受け入れ、認知症についての説明と体験を通して理解と支援の方法を知ってもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や行事でのご利用者の様子、事故報告を行い、会議の参加者の方から頂いたご質問やご指摘に対して改善するようにしている。	偶数月の第3火曜に他の施設と合同で開催しており、自治会長や民生委員、市役所担当者など地元や行政関係者が多く参加し活発な意見交換がなされている。中でも“ニヤリハット”と称して思わず微笑むような出来事を披露するなど、問題点をあげつらうのではなくプラス思考の中でより良い運営を目指す推進会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接やり取りをする関係性は出来ていないが、運営推進会議の時に相談するようにしている。また、緊急の情報や研修の案内は継続していただいている。	市との対応は運営法人による在宅介護支援センターが窓口となっているが、実質的には運営推進会議において必要なやり取りを行っている。これまで特に問題等はなく、事業所の状況などをよく理解してもらっており、市との関係は良好に築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束についての伝達研修があり、四郷施設としての身体拘束の委員会とグループホームにも身体拘束の委員会を作り、常に身体拘束について考え、身体拘束を行わないように取り組んでいる。	運営法人のすべての事業所に共通するマニュアルを制定しており、グループホームとしても「拘束防止実行委員会」を設置し毎月の研修会を実施している。また日常の支援においても職員同士が気を付け合い、特にスピーチロックなど利用者の立場に立ったケアのあり方に努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待についての伝達研修があり、四郷施設としての虐待防止の委員会とグループホームにも委員会を作り、常に虐待について考え、注意と防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用しているご利用者がみえる為、制度について知る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の訪問時や入所時の契約書をご記入いただく際に管理者が説明し、疑問や不安に思うことがないか確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見をお聞かせいただける用紙を設置したり、面会時やお電話でいただいたご意見に対して、職員と話し合い、改善するように努めている。	家族との対話は面会時や利用者の受診の際に機会を見出して行っている。また遠方など訪れる機会の少ない家族には電話での計画説明等の時に話しているが、時間的な制約があり思うに任せない所もある。また、現在3～4カ月ごとに“たより”を発行しているが、これを充実させて意見を取れる形にすべく検討中である。	家族意見の聴取とその反映は運営上の重要な要素のひとつである。これには様々な取り組みが必要となるが、現在“事業所だより”の充実が計画されていることから、これを基にした家族意見の聴取方法等の工夫に期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やミーティング等で意見や提案を聞くようにしている。また、管理者から本部事務所に報告している。	月1回は職員会議を行いケアから運営まで幅広い内容を話し合っており、上意下達ではなくざっくばらんな雰囲気の中で全員が均等に意見の言える工夫をしている。また運営法人内の4カ所のグループホームが合同で運営に関する会議を行っており、検討された基本的な方針にそれぞれの事業所独自の特徴を生かした運用を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度からではあるが、グループホームの運営推進会議が開催されるようになった為、この会議で意見や話ができる機会となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は報告書の提出で、法人内の研修は研修受講時の態度等で把握している。研修の受講者の候補は管理者の推薦制となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四日市市の北勢ブロックの老人福祉協議会の開催されるフォーラムに参加したり、会議に出席することで、同業者との交流する機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問調査時にご本人の思いや状況を把握し、職員には入所前にケース記録を読み情報共有に努めている。そして、入所されたら笑顔で接し、不安の解消を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学にみえた時や訪問調査に伺ったときに一方的に説明や質問をせずに、施設に対する事で気になる事やご質問・疑問がないかも含め、傾聴しながら安心して話をしていただけの雰囲気になるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のご希望により、必要な福祉用具等は外部サービスとなる事等を対案し、必要なら事業者に連絡を取ったりするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者にとってもう一人の家族として、時には友人として接し、一緒に家事などを行いながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の体調の変化や身体状況の変化により今後のケアの変更については、ご家族と相談しながら一緒にご利用者を支える協力関係を築くように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方の面会を歓迎し、今後も足を運んでいただきたいと話している。	友達、同級生や近所の人達の訪れがあり居室やアクティビティスペースでの談笑に利用者の喜びが見て取れる。また食材の買い出しの折にスーパーマーケットで知人に会って会話が弾んだり、元々の生活圏での日常的な行動は馴染みの場所や人達との関係をつなぐ大切な機会であり支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者がご利用者を手助けしている姿を職員は見守り、必要時には職員がケアの手助けをして、ご利用者同士助け合いながら穏やかな生活になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に入所された施設に伺ったり、入所された施設の職員からその方の状況を聞き、その方のその後の状態の把握に努めている。また、退所後もご連絡・ご相談の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活や習慣を把握し施設でも継続出来るよう検討したり、ご家族と相談して居室内の環境を整える等、ご本人の希望に添えるように努めている。	失語症を患う利用者もおり、それぞれの意向の把握には特に気を配っている。家族からの情報や職員間の気付きなどをカルテや申し送りノートに記入し、全員で共有しながら何よりも利用者本位であることを主眼において支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族からご利用者の生活歴や習慣を聞くようにしている。また、担当ケアマネジャーやご利用していたサービスの職員からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調や生活の様子は個人記録に記入していて、毎朝出勤者は業務に入る前に記録を読み、職員一人ひとりがご利用者の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成時にご利用者の希望・ご家族の意向を聞き、他の職員の情報も得ながら、ご利用者本位のケアプランにしている。	介護計画は、ケアマネジャーと部屋担当者が主となり家族も含めて職員全体で検討している。計画期間は6ヶ月を基本としており、部屋担当者によるモニタリングを経て全員で評価し次の計画に繋げている。家族への説明は対面を基本としているが、できない場合は郵送した計画書を見ながら電話で説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づき等を個人記録に記入し、職員が読んで気になったケアの仕方や対応について話し合い、別の方法を試し、ケアプランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に体調を崩したご利用者の受診の対応や必要物品の購入の代行を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同敷地内のデイサービスにて開催される催し物に参加させてもらい、楽しんでみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医にご家族と受診してもらっている。ご家族の了承を得られた時はかかりつけ医と直接話をして、適切な医療を受けられるようにしている。	利用者全員が入居前のかかりつけ医に診てもらっており、受診は職員が同行しながら家族での対応となっている。協力医は必要な場合の往診対応を約束してくれており、同一法人内のサテライト施設等の看護師の協力と併せて利用者・家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にある訪問看護ステーション・デイサービス・サテライト特養の看護師に相談にのってもらっている。また、ご利用者の急変時には見てもらい処置や適切な指示をもらい、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、ご家族や病院関係者と連絡を取り合い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の意向を確認し、可能な限りグループホームで過ごしていただける説明を行い、受診時に職員も付き添っている。また、往診医や訪問看護と連携を取りながらケアを継続している。対応困難となるとご家族と相談して介護施設等の紹介を行っている。	これまでは同敷地内の訪問看護ステーションの協力により看取りを実施していたが、本年8月末で同ステーションが閉鎖することとなり実質的な対応が不可能となることから看取りに関しては断念せざるを得ない状況となっている。今後必要であればバックアップ施設への入所など、家族と相談の上対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同敷地内の四郷での研修会で学んでいる。また、手当や対応で疑問のある時は訪問看護ステーションの看護師に確認したり、相談し、教えてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の施設との連携の確認も含め、通報訓練や避難訓練を行っている。また、他所で災害があると職員と避難方法の確認をしている。	同じ敷地内の事業所と合同で避難訓練などを行っているほか自治会の防災訓練に職員が参加しており、その際に車いすの操作方法を指導し体験してもらうなど一定の成果を上げている。自治会も運営推進会議の場で今後の協力を約束してくれるなど互いの体制づくりに努力されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人ひとりを尊重する」という理念から、ご利用者は人生の先輩として尊敬し、敬意をもって声掛けをし、対応している。	特筆すべきは居室ドアと居住スペースの間に薄いカーテンが設置されており、居室での活動が廊下側から見られないよう工夫がなされている。利用者への呼び掛けは“さん付け”を基本としており個々の尊重を基にして利用者の立場に立った支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい過ごし方をしてもらえよう、希望が話しやすい雰囲気と声掛け、ご利用者に寄り添い思いをくみ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌の会や行事・催し物のお誘いはするが、ご本人の意思を尊重し、好きなように過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方には職員が整容に気を付け、服が汚れていたりした時は着替えていただくように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい献立を聞いて買い物をしてきたり、好き嫌いのある方には別の食材を用いて対応している。また、食器を洗ってくださるご利用者に洗ってもらっている。	食事の用意は買い物から始めることとしており、利用者と職員と一緒に近所のスーパーマーケットなどに出掛けている。以前は運営法人内の管理栄養士による献立通りに調理していたが、グループホーム本来の姿に立ち返ることとし献立から調理まで職員全員で行っており利用者の手伝いもあって和やかで自然な食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後や外気浴中、散歩の後にはポカリスエットを飲用してもらっている。また、食事摂取量の少ない方には食べられるものや好きなものを食べてもらったり、栄養補助食品を食べてもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きやうがいを勧める声掛けをし、その方に応じて見守りや一部介助を行っている。また、義歯の方には就寝前に洗浄剤使用での洗浄の声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能の低下予防の為、身体機能が低下してきても安易に紙パンツや紙おむつ対応にしないよう、職員で話し合っている。	利用者の現状としては自立と誘導が同比率で混在している状態で、自立については見守り、誘導については排泄記録を中心に習慣づけなど円滑に支援されており総じて問題はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、野菜の多い献立や乳酸菌飲料を飲用していただいている。ラジオ体操もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好まれない方には声掛けの言葉を工夫したり、声掛けを行うタイミングや職員が交代して声掛けをしたりと工夫している。また、当日入浴を拒否されたら翌日に変更している。	お風呂は基本的に毎日入浴可能で全員が楽しんで入っている。支援は1対1で行っており、それゆえの気楽さから利用者の昔話や思い出話がよく聞かれ、それをもとに新しい発見と支援につながることもある。職員にとっても利用者にとっても貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を好む方、就寝時間をきめている方、眠くなったら寝る方等自由にしてもらっている。また、エアコンの温度に気を付け、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。また、処方変更は業務日誌や連絡帳に記入し、申し送りをして職員の把握に努めている。服用時の体調の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たみ、ごみ捨て、手すり拭き等個々に合った役割を持ってもらうようにしている。また、季節の作品作り、パズル、数独、塗り絵等楽しみ方も個々に望まれるものを行ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での外気浴や散歩をしている。	年中行事としては、季節ごとの花見や初詣などに出掛けている。日常的には食材の買い出しなどで近所のスーパーマーケットなどに出掛けたりする他、事業所の畑での野菜の収穫や周辺を散策しての外気浴など入居前と変わらず自由に戸外での生活を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はグループホームでは行っておらず、ご家族と相談してご本人管理で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があれば、かけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品をご利用者と作り、飾って季節感を出すようにしたり、室内の温度に気を付けている。	玄関から居間兼食堂への移動、また廊下を経て各居室への動線に無駄がなく機能的に設計されている。特に廊下の最奥にアクティビティスペースと呼ばれる空間が作られていて椅子、テーブルにテレビが設置され、明るい大きな掃き出し窓は居間と共に利用者の憩いのスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティルームで一人ゆったりとテレビを見て過ごされる方、ご利用者2~3名の方と職員が洗濯物をたたみながら話に花をさかせてみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の希望があれば、家具や家電製品等を持ち込めるようになっている。また、今まで使用されていた家具を持ってきてもらい、安心して過ごしてもらえる空間作りに努めている。	居室に入ったすぐの左右には洗面台とクローゼットが造り付けられており、更にカーテンで仕切られた奥にベッドが設置されるなどプライベート空間確保への配慮が行き届いている。掃除は職員が行うことになっているが、多くの利用者が自ら手伝うなど日常生活作業への意欲が見られるなど居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は、居室は分かりやすい掲示に努めている。		